

# 第1回新宿区東京2020大会区民協議会合同部会における意見及び回答要旨

資料 1

No.	意見・回答要旨
●東京2020大会普及啓発	
1	<p>イベントの内容よりも、イベントをどのように告知していくかがすごく重要ではないかと思っています。新宿区内で、オリンピック・パラリンピックだけでなく、様々な良いイベントを行っていますが、情報発信の仕方がもう少し工夫できないかと思っています。普段から自分で情報を集めに行くような方にとっては、区報を見れば情報がつかめますが、全くそうではない関心がない人にも行き渡るようなイベントの告知の仕方を考えなければいけないのではないかと思います。</p> <p>文化・芸術といったイベントをフェイスブックにもあげていますが、「いいね」の数が1桁だったりするという残念な結果ですので、そういった発信の仕方を考えていくほうがいいと思っています。</p>
2	<p>今年度は1000日前イベントがありますが、それ以外にも恐らくイベントの数が増えてきたりするのではないかと思うこともあります。今後、具体的にどのぐらいのイベントを企画して、どのぐらいの規模で行うのでしょうか。それによって、先ほど意見のあったような告知の仕方、そういったところの事業費はどのように考えているのでしょうか。事業費がもっと掛かるのではないかと思います。</p>
3	<p>事業経費については、少し心配しているところがあります。イベント規模をどのぐらいにするかによって事業経費に大きく差が出てくると思いますので、その辺りは大丈夫なのでしょうか。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長) 平成30年度における気運醸成イベントは、2回を予定しています。平成31年度は、イベントを1回とパブリックビューイング、平成32年度は100日前のイベントと聖火リレー関連イベント、大会開催期間中のパブリックビューイングを予定しています。 現在計上している事業費の中で実施しますが、このほかに実施すべき事業があれば、追加を検討していきますので、ご意見お願いします。</p>
4	<p>イベントの申込みの仕方ですが、往復はがきで申し込むことが多いです。その場合、往復はがきを買いに行かなければというロスが生まれるので、それならば面倒だから申し込まないという人も割と多く見受けられます。</p> <p>今の時代、スマホを使っている方が多いです。QRコードで読み込むことができたならその場で申し込めるので、もっと円滑にいくと思います。ですので、事業経費の問題があるかもしれませんが、ご検討いただければと思っています。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長) QRコードを活用した申込み方法については、今後検討させていただければと思います。</p>
5	<p>それぞれの事業の告知に要する費用に関しては、各事業の事業費に含まれていると考えていいですか。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長) 事業の周知の経費についても、事業経費の中に入っています。今年度実施する東京オリンピック・パラリンピック大会1000日前のイベントですが、各小・中・特別支援学校を通じて児童・生徒に1人1枚ずつチラシが行き渡るように配り、周知を図っていきます。</p>

No.	意見・回答要旨
●スポーツ	
6	<p>周知方法について、そもそも興味・関心がないとなかなか情報が目にとまることがないというところがあるので、例えば、いつでもどこでもオリンピック・パラリンピックのことが目に入るように、施設に大きくてインパクトのある掲示をしたらどうか。</p> <p>掲出物の内容について、開催日程や競技種目を記載して具体的に分かりやすく表示したほうが、大会に向けたムードが高まるのではないかと。</p> <p>スポーツ施設に入ったところに、すぐに目に飛び込んでくるような、印象に残るような表示をしたらどうか。</p> <p>区の施設を練習会場として提供したらどうか。そこで練習する選手団と間近に交流を持てるような機会を創出したらどうか。</p>
7	<p>戸山公園の箱根山地区多目的運動場広場ですが、誰でも利用できるような誰でもトイレがまだ設置されていません。せっかく整備を掲げているので、そういったことについても整備の中の計画に入れていただければと思っています。</p> <p>また、こちらのグラウンドですが、とても自然豊かなグラウンドで、土も自然のまま活用していますが、大雪や大雨になると、グラウンドがぬかるんでしまうという状況がございます。サッカーの大会などをしていても、ベビーカーを押している親御さんたちが困るほどグラウンドがひどい状況になってしまうこともございますので、そういったことも含めて整備の検討をしていただければと願っています。</p> <p>それから、23区で一番高い山である箱根山のイメージをどんどん押し出していくために、オリンピックの種目に新たに追加されたスポーツクライミングを活用してほしいと思っています。最近、スポーツクライミングは若い方にとっても流行っていきまして、新宿区内にもジムができています。箱根山にこういうスポーツクライミングのジムをつくって、総合運動場の整備の中で、新宿区の目玉としてPRしていくようなことをしていただければと思っています。</p>
	<p>(生涯学習スポーツ課長)</p> <p>まず、トイレについてですが、今、都立公園の一部を運動場として整備することになっていきますので、トイレを都立公園の一部として都が整備するのか、あるいは運動場の一部として区が整備するのかを含めて、まだ検討が進んでいないというのが実態です。もちろんどちらが整備するにせよ、障害のある方が自由に利用できるトイレという視点での整備は大変必要なものだと思っています。</p> <p>それから、グラウンドについてですが、高低差がある敷地の中で、どのようなものにするのか。例えば、人工芝にするのか、あるいは土にするのか。このグラウンドは、様々な団体の方が様々な競技で使っていただいています。芝と言っても、サッカーをする方が好む芝と、野球をする方が好む芝があるので、広く多目的に使用できるように、どのような整備が一番使い勝手がいいのか、ご利用団体の方からご意見を十分にいただきながら整備を進めていきたいと考えています。</p> <p>それから、箱根山についてですが、箱根山は非常に眺望がよく、スポーツの担当としても気運の高いところだと思っています。ただ、落下事故の恐れ等、安全面を考えると、そういったことができるのか、できないのかを考えていきたいと思っています。</p> <p>都立戸山公園は非常に広いゾーンであり、全体の大きな計画の中の一部公園の利用として運動場が位置づけられているということもありますので、東京都の動向を聞き取りながら、今のご意見なども魅力的な提案として受け止めさせていただきたいと思っています。今後、何か動きがございましたら、この場でもご報告を申し上げたいと思います。</p>

No.	意見・回答要旨
8	<p>実際にオリンピック・パラリンピックを行う上で、競技団体の皆さんのご意見というのはとても大きな意味を持ってきます。現在、新宿区の体育協会に加盟されている団体、あるいはオリンピック種目にある新宿区の団体のリストがあれば、ぜひ少し資料としていただきたいと思っています。</p> <p>各競技団体の皆様がオリンピックに向けてご苦労をされていることがたくさんあります。少しでも自分たちの競技団体をアピールしたいと思っている方々は、数多くいらっしゃるのではないのでしょうか。</p> <p>それぞれの連盟が新宿区の中でメインとしている催し、その上にある東京都大会、あるいはジュニアの大会といったものをうまく活用していくと、各競技団体の方々のご協力をいただきながらオリンピックに向けてのムーブメント加速させていくことができると思います。</p> <p>ボランティアの方々の活動も、そういった催しに連動してくると思いますので、こちらについても資料等があれば有難いです。同様に、直接各競技団体以外に町会・自治会、商店会の方々が、やはり何かをやりたいというお話が出てきたときのきっかけにもなっていくかと思っています。</p> <p>2002年の日韓ワールドカップサッカーの際には、やはり何をしたいか分からないということが最初の頃はありましたが、一つの競技団体の試みが一気に波及していきました。そのため、こういう情報があれば共有したいと思っています。</p> <p>(新宿未来創造財団担当課長)</p> <p>体育協会の運営支援を公益財団法人新宿未来創造財団で行っています。ご意見いただいたとおり、各競技団体の力を借りて、働き掛けていくことは必要なことだと思いますので、体育協会に加盟している39団体の中でオリンピック種目となっている競技はどのくらいあるのかということ、こういった活動を主に行っているのかということについては、この協議会の場において情報提供したいと思います。</p>
9	<p>オリンピックの成功には三つの大きな要素があるというお話を、スポーツ庁初代長官である鈴木大地氏と、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事である橋本聖子氏からお聞きする機会がありました。一つはスムーズな大会運営です。この点は、各競技団体の責任の中で行っていきます。それから、日本選手団の好成績です。こちらは、初日からメダルラッシュになれば、早い段階で盛り上がっていきます。それから、やはりオリンピックを開催するホームタウンの存在です。新国立競技場がある新宿区でいかに盛り上がって、いろいろなホスピタリティが整った状態をつくれるかという三つの要素についてのお話をされていました。</p>
10	<p>トップアスリートの練習見学会とありますが、今までこういうイベント等があるのはやはり新宿コスミックセンター、あるいは新宿スポーツセンターの2か所です。ほかに体育館がないから仕方がないのかもしれませんが、今の2施設は場所的に固まっていますので、離れた地域に住む方が参加しづらいというのはいつも思います。</p> <p>ですから、新宿区の隅々に体育館をつくるのは無理な話だと思いますが、イベントをできるような場所をもう少し広げていただきたいとは思っています。民間施設を新宿区が借りて、そこでイベントを行うようなことをしていただければ、もっと参加しやすくなるのではないのでしょうか。</p>

No.	意見・回答要旨
教育	
11	<p>2,000万円ほどの予算で英語キャンプを実施するということですが、参加する小学生あるいは中学生は、それぞれ100人から150人前後かと思っています。新宿区には恐らく1万人以上の小学生、中学生がいることと思いますが、その中で英語キャンプに参加できる人は限りがありますので、もう少し効率の良い英語の普及ができるイベントが欲しいと思いました。</p> <p>もちろん、英語キャンプはとても意義あることですし、子どもたちが英語に対する感覚を養う大事な機会だと思います。しかし、参加者が200人くらいだと、ものすごく足りない気もします。もう少し効率的に予算を使って、区内の児童・生徒の英語力を養う方法を考えるべきではないかと思っています。</p> <p>一つ提案ですが、英語スピーチ大会を各校で開き、その優勝者どうして更に大会を行うということになれば、かなりの英語の勉強になると思います。また、オリンピック・パラリンピックの際には、英語を勉強した方々がボランティアとして活躍できると思います。英語キャンプを効率の良い方法で改善するというのはいかがでしょうかというご提案です。</p>
	<p>(教育支援課長)</p> <p>英語キャンプについては、今年度から定員を拡充しまして、平成30年度から平成32年度まで継続して行う計画ですが、中学生が40数名、小学生が100名弱参加していただきますので、全体で約140名程度の参加を計画しているものです。</p> <p>全体の小・中学生の数から見ると、参加できる児童・生徒の数が少ないというところではありますが、昨年度から実施しており、参加した子どもたちの様子を各校に調査してみましたが、それぞれ非常に英語に対する関心が高まっています。学習に対して非常に積極的になった、あるいは授業の中でもこういった子どもたちの姿を見て、周りの子どもたちも英語に積極的に取り組むようになったということ、それぞれの学校から報告されています。そういった意味でも効果があるものと考えています。</p> <p>一方で、冒頭申し上げましたとおり参加人数に限られてくるということがございますので、それ以外の取組みについても今後の検討課題の一つであると考えています。</p> <p>具体的には、それぞれの学校でNPO法人や地域の団体等と協力して、2泊3日のような宿泊ではありませんが、ネイティブスピーカーを招いて英語体験を1日行っている学校もございます。そういったところを支援していく、あるいは情報を共有していくということで、より多くの子どもに体験の機会を与えられればと思っています。</p> <p>それから、スピーチコンテストのお話も大変良いご提案であると思います。今、区立の中学校では英語学芸発表会を行っていきまして、そこで子どもたちがそれぞれ学校の代表として練習して、発表をする取組みを行っていきまして、実は、今年度の8月に実施したところなんです。こういった取組みを通して、英語キャンプと同様、子どもたちが英語に対して非常に積極的な姿勢を育てることができたという報告を聞いていますので、今後こういったことを拡大できないか、機会をとらえて考えていきたいと思っています。</p> <p>英語キャンプについては、当面、現在の取組みを続けていき、意欲の高い子どもたちに様々な機会を提供する、こういった機会を通して意欲を高めていくということに取り組んでいきたいと考えていますが、先ほど申し上げましたようなほかの取組みを通じてより多くの子どもたちに機会を提供したいと思っています。</p>

No.	意見・回答要旨
12	<p>平成27年度の東京都の児童運動習慣等調査の報告書の市区町村別を見ていますが、教育に関して、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、中学校卒業後、自主的に運動したいと回答した割合」を現状の63%から平成32年度末には65%に持っていきたいというのですが、新宿区の調査結果を見ますと、運動部に所属している率が、例えば小学校だと男子が62.7%に対して、女子が36.9%という結果になっています。確かに、サッカーや野球など、男子は運動を習慣的に行う場所がありますが、女子に関してはそういうことがないと思います。こういった数値を底上げしたいときには、うまくいっているところを更に引っ張り上げるよりは、うまくいってないところをてこ入れしたほうが、全体的にレバレッジがかかるということもあります。</p> <p>そういったことで、スポーツ系のイベントに関しては、男子は興味があれば自主的に来ますので、どちらかというと女子にアピールできるような企画、発信方法を考えていけば、目標の達成に向けて実現が早まるのではないかと思います。</p> <p>(教育指導課長)</p> <p>女子児童・生徒の体力の向上も課題かと思っています。小学校のスポーツギネスについては、いくつか種目があります。片足けんけん20メートルや、バスケットボールのシュート、バレーボールの円陣パスなどがございます。それらのタイム等を集計して、その結果を区全体で集約して上位者を表彰するような制度を新宿区として進めているところです。</p> <p>この取組みは複数年にわたって取り組んでいるところで、確実に新宿区の小学生の体力の向上については効果が出ていると認識しているところです。</p> <p>ただ、今、ご意見をいただきましたように、スポーツギネス新宿の取組みだけではなくて、ほかのスポーツへの関心を促したり、スポーツイベントへの参加を促したりという周知については一層工夫していく必要があると感じていますので、様々な開催するイベントに向けて学校を通して、その辺りへの参画を広めていきたいと考えています。</p>
13	<p>障害者理解教育の推進について、新宿未来創造財団での取組みをご案内させていただきたいと思います。</p> <p>当財団では、区の受託事業として、コミュニティスポーツ大会として、各地区大会の運営を地域の皆様方のご協力を得て進めています。誰もが気軽にできる運動ということで、ユニカール、輪投げ、ビーチバレーを種目にしてありますが、10地区ともポッチャを採用していただきたいということを要請しているところで、皆様方に体験していただく機会を持ちたいと思っています。</p> <p>また、受託事業の一つで、放課後子ども広場を受託しています。財団で受け持っている学校の中では、ポッチャの器具を持たせて、毎日というわけではありませんが、放課後、ポッチャに触れてもらうという機会をつくっています。</p> <p>さらに、新宿コズミックセンター入口で、東京都が作成した、パラリンピックスポーツの映像を上映しています。こちらは、パラスポーツに少しでも皆様方に触れてもらう、知っていただくということで行っています。</p>
14	<p>平成28年度から小学校では、和妻や日舞、落語、狂言などを体験しています。ほかには、例えば芸能花伝舎では、2005年にその芸術体験広場を開催していたり、地域と密着していろいろ伝統芸術を広めたりという活動をしているようです。</p> <p>それから、文化庁ではもともと伝統文化親子教室という授業があって、それは全国でも行っていますが、例えば四谷地域センターでは、新宿区に日本舞踊子ども教育があり、昨年娘も参加しましたが、幼児でもきちんと所作などを教えていただける良い体験がありまして、そのほか数多く新宿区では伝統文化に関する催しは多くあります。この事業が単なる個人的な理解に留まってしまえば非常にもったいないので、これをきっかけに海外の方たちにも日本の文化の素晴らしさを知ってもらえるような機会、発表を発信していけるような場があればいいと思っています。</p> <p>(教育支援課長)</p> <p>昨年度からこの伝統文化の理解教育のために、全小学校で日本舞踊、和妻、狂言、落語のいずれか一つを体験して、この4年間に全校に回していくということで実施しています。子どもたちはこういった体験を今までしたことがなくて、非常に関心が高まったという感想が多く聞かれますが、これは個人的な感想で終わらせることがないようにしていくことが肝要であると思っています。</p> <p>先ほどご紹介いただいたように、新宿区だけではなく、東京都、あるいは芸能花伝舎等様々な取組みがございまして、こういったところの情報発信の工夫をしながら海外の方々にこういった日本伝統文化の良さを伝えられるような教育を進めていければと思っています。</p> <p>それから、和楽器の体験については、特に中学校では伝統的な太鼓などを扱っているわけではないですが、地域に様々な伝統的な和楽器を継承されている方がいらっしゃいますので、その方々のお力をお借りしながら地域と一体となってこういった教育を進めていければと思っています。</p>

No.	意見・回答要旨
15	<p>英語キャンプの話に戻りますが、「英語を用いたコミュニケーションの楽しさを実感した」と回答した割合を100%にすると掲げています。この目標設定ですと、民間企業の英語教室が行っている英語キャンプとあまり変わらない印象を受けます。あくまで、これは2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた新宿区の事業であって、計画事業概要に則った目標設定にしなければいけないのではかと思っています。</p> <p>新宿区についての理解を深めることや外国について理解することで国際感覚を養えることを重視して、それも目標設定に掲げていただければ、単に英語でのコミュニケーションの楽しさを実感すればいいという目標設定だけでは少し寂しいと思います。</p> <p>(教育支援課長)          こういった目標とした背景といたしましては、そもそものこの事業の目的として、先ほども少し申し上げましたが、英語に積極的に触れる姿勢を育てていただくということを目標としています。</p> <p>そういった中で、プログラムの内容としては先ほどご紹介いただいたような新宿区の観光案内について、英語のネイティブの講師と英語でやり取りをしながら、自分たちでその案内のプログラムをつくってお互いに発表し合うなど、それから、日常生活の中でもそういったネイティブとのコミュニケーションを授業以外の場面でもとるということを進めています。</p> <p>こういったことを総合的、最終的に評価して英語に積極的に取り組む姿勢をどのぐらいできたかということを測る指標として、このような目標を設定していますが、先ほどいただいたようなご意見は非常に重要な観点とと思っていますので、そういったことがしっかりと子どもたちが身につけられるように今後も事業を展開していきたいと思っています。</p>
16	<p>教育関係ですが、もう少し地域との関係性を考えていくことも必要かと思っています。将来的にはボランティアなどにつながっていくことと思いますので、キャンプに行っ楽しんで終わりではなくて、それをどう発展させていくかということも少し考えていく必要があると思います。</p> <p>それから、障害者理解についても同じだと思いますが、スポーツ体験だけで終わらせないで、それを次にどうつなげていくか、障害者のスポーツ理解を、健常者等含めて一緒に考えていく必要性もあるのではないかとということで、またいくつかの取組みもあろうかと思ったり、また、更にこれにブラッシュアップして、より具体的な活動、事業の推進もあり得るかと思っています。</p>
●文化	
17	<p>前回のご意見の中で、新宿フィールドミュージアムの期間の拡大や、ホームページの多言語化などについての情報提供が委員からございましたが、特に、情報発信についてはとても重要ではないかということで、取組みの一つとしてどんなことが考えられるか。先ほどのSNSの利用など、そういったことも少し含めてご検討していただければと思います。</p> <p>(文化観光課長)          新宿フィールドミュージアムについて、紙媒体で行っていた案内を他言語表示するというので、情報発信の強化を図っています。現在、ガイドブックは日本語のみの表記になっていますが、英語を始めとして、中国語や韓国語の表記に広げていきたいと考えています。</p> <p>また、それとともにホームページの整備も行っており、各参加団体がSNSを活用して拡散していただくという方式をとっていきたくて考えています。</p>
18	<p>和を伝えるプログラムについて、華道、茶道の和の文化を体験できるプログラムということですが、これはどこで体験をさせるのでしょうか。</p> <p>(文化観光課長)          こちらは、来年度計画事業化しますが、今年度は経常事業として行っています。会場としては、区内のオープンスペースを活用して実施したいと思っているところですが、オープンスペースについても、茶道、華道、水を使ったり、火を使ったりいろいろありますので、そういったところを今調整している段階です。これからしっかりと集客が図れるような場所を会場にして、皆様に周知していきたいと考えています。</p>

No.	意見・回答要旨
19	<p>和を伝えるプログラムですが、英語キャンプや伝統文化理解教育を行っているので、そこで学んだものを児童・生徒が活かせるような流れをつくってもいいのではないかと思います。</p> <p>(文化観光課長)          こちらのほうは、主に外国人訪問客を中心として見据えている事業ですが、やはり華道、茶道、それぞれに日本語対応を行うことは難しいので、今のところ通訳を介して行う予定です。区としても横のつながりでどのように協力体制ができるかということについては、まず今年度実施してみて、その経過を見ながら考えていきたいと思っています。</p> <p>(教育支援課長)          英語キャンプの参加者については、オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、英語に対する子どもたちの積極的に学ぼうという姿勢を育むことと、それから同時にオリンピックの際には実際にそういったボランティアとしても活躍できるような素地を養っていくことも目的の一つとしています。英語キャンプに参加した児童・生徒については、教育委員会からもボランティア活動ができるような機会があれば、そういった情報提供を行って、実際にボランティア活動を行っていただくという取組みを今まで進めています。例えば、昨年度で申し上げますと、中学生の部で43名ほど英語キャンプの参加者がありましたが、このうちの19名が新宿シティハーフマラソンのボランティアとして活動したという実績がございます。当日は、外国人の方がほとんどいっしょらなくて、英語を使う機会がなかったのですが、参加した子どもたちの感想を聞いてみますと、スポーツボランティアの体験が初めてで大変楽しかったという感想が多く聞かれました。今後も和を伝えるプログラムの中でできるかどうかを検討しなければいけないと思いますが、そういったボランティアとして参加ができるような機会があればまた発信していき、子どもたちが実際のオリンピックの際にボランティアに積極的に参加するような姿勢を育てていければと考えているところです。</p>
20	<p>私の会社では、昨年から通訳案内士養成講座を始めました。ぜひオリンピック・パラリンピックに新宿区として質の高いガイドを確保できるようにご協力ができたらと思っています。今、新宿区としてどれぐらい通訳案内士というのはいっしょるのでしょうか。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長)          申し訳ございませんが、こちらでは把握しておりません。          ※東京都の通訳案内士登録者数:7,527人(平成29年10月末現在)(区市町村別の登録者数はなし)</p>
21	<p>参加団体を増やすということと、それぞれの参加団体がそれほど力を持っているわけではないので、参加団体にどれほど支援できるのかということが、新宿フィールドミュージアムの盛り上がりにも影響するのではないかと思います。新宿フィールドミュージアムについては、認知度が低いという印象を受けています。私の大学でも参加していますが、いろいろ見て回るのどこでやっているのか分かりにくいという部分があると思います。</p> <p>(文化観光課長)          現在、期間の拡大等も考えており、期間拡大に合わせてチラシの発行回数を増やすといったことや、チラシ等の設置場所も拡大していきたいと考えています。          それから、ホームページを活用して参加団体に広く呼び掛けて、情報発信の強化をしていきたいと思っていますので、そういったことで平成32年まで事業を拡大していきます。</p>

No.	意見・回答要旨
●観光	
22	<p>海外旅行の際には、トイレの場所を探したり、無料のトイレが少なかったりします。東京でも、公衆トイレは古くて、あまりきれいではないところが結構多かったです。新宿区では、公衆トイレはどのように整備しているのでしょうか。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長)            第一次実行計画の素案の中で、清潔できれいなトイレづくりという計画事業がございます。これに基づいて、公園トイレと公衆トイレについて、清潔でバリアフリーに配慮した誰もが利用しやすいトイレに向けた整備を計画的に進めていきます。            この事業は、オリンピック・パラリンピック関連事業として位置づけられていますが、今回は割愛させていただいているところです。</p>
23	<p>当然、オリンピック・パラリンピックに向けて環境整備を進めていることと思いますが、今回ここでは具体的な事業のご提案、ご意見をいただきたいということだと思います。オリンピック・パラリンピックに向けて来る国内外の人たちに向けて新宿区のトイレの清潔さをアピールすることを考えていただきたいと思います。ただ、それをどのように発信するかがここでの議論になっていくと思いますので、そういった公的な場所、休憩スペース、トイレの場所、警察、交番の位置などの情報発信の仕方をいろいろと工夫していただければと考えます。</p>
24	<p>観光情報の発信について、ホームページのビュー数を上げるということ、29年度から32年度に上げるという目標値が出ていますが、この中に海外からのアクセス数、もしくは国内のアクセス数、それぞれもう少し見分けた形で国内でのアクセス、むしろ海外からのアクセスをどういうふうを増やすかというところの目標があってもよいのかなと思っております。</p> <p>(観光振興協会担当課長)            海外の方のアクセスを増やしていくことは、観光という側面では非常に重要なことだと思っております。            ホームページだけではなく、海外の方に新宿区の魅力を知ってもらうためにプロモーション動画をつくって、情報に触れてもらうための最初の動機づけを積極的にやっていきたいということで、今回の計画の中にも書かせていただきましたが、海外へのプロモーションを実施しております。            区の事業とは少し離れますが、観光振興協会というセクションについては官民一体の組織でございますので、ホームページに海外の方に見ていただくための広告的なもの、例えばイベントがあるときに新宿区という情報に触れた方に見ていただけるような取組みもしています。</p>



No.	意見・回答要旨
●産業	
25	<p>先ほどの伝統文化理解教育の推進や和を伝えるプログラムに関連しての提案ですが、新宿区は地場産業として染色関係がかなり盛んで、染の小道などのイベントなども年々賑わってきており、外国人観光客がそこに参加することも多くなってきています。オリンピック・パラリンピックの種目は全部合わせると55種目ありますし、オリンピック・パラリンピックのエンブレムなどもあるので、そういったイラスト、エンブレム、標識、手拭いなどの型をつくって、例えば小学校の中でそれを染めていく、あるいは外国人観光客が染めるという体験ができるような取組みも検討してみると面白いのではないかと思います。</p> <p>また、日本の文化として、アニメやマンガが定着してきていると実感しています。新宿区内にアニメ関係の専門学校も多くありますし、中学高校でアニメやマンガを研究しているような部活、サークルもごさいます。例えば、オリンピック・パラリンピックの種目の歴史や、そこに参加する選手の方々の自叙伝をそういう方々がアニメとして書いて、地場産業としてつなげていき、印刷・製本といった地場産業にお願いして、フリーペーパーとして配布するなど、様々なネットワークができるような環境を整備してみてもいいと思います。</p>
	<p>(産業振興課長)</p> <p>今考えていますのは、染色、印刷、製本関連といった地場産業のところでは何かを制作していただけないかということで、予算的には助成金を計上しているところです。これから地場産業のそれぞれの団体の方と話をしながら進めたいと考えています。</p> <p>エンブレム等を染め物にということについては、エンブレムの使用方法については規制があり、利益につなげることはできないということです。ただし、昨年、組織委員会がつくった風呂敷型のスカーフは新宿区の方が染めたものとして都知事にも着用していただくなど、そういった気運も出てきていますので、何らかの工夫しながら規制の範囲内で取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>また、アニメといいますとやはり動画になりますので、例えば、フリーペーパーをつくった際に、印刷、製本の方々の利益、売上げが上がるかどうか、誰が印刷費を出すかということもごさいますので、ご意見をいただきながら工夫をしていきたいと思っています。</p>

No.	意見・回答要旨
環境	
26	<p>みんなのメダルプロジェクト事業の一環で、メダルの原料となる金銀銅がどのようにリサイクルされているかを見学できる清掃関連施設見学会が8月22日に開催されたかと思えます。自分たちの携帯電話やゲーム機がメダルに生まれ変わるということを理解できたら、オリンピックやパラリンピックの見方が変わりますので、この見学会はとても良い企画だと思います。</p> <p>8月22日に開催されても、区内の小学校は8月25日が始業式なので、自由研究にまとめる時間がありません。8月中旬頃までに開いていただいて、例えば、自由研究にもなるというようなキャッチコピーをつけていただくと、子どもたちが自らメダル制作について発信しますし、それをまたみんなで共有できますので、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まると思います。もし可能でしたらその辺のご検討をよろしくお願いします。</p> <p>(清掃事業担当副参事)        今のご意見は、来年度以降の事業に向けて、取り入れていきたいと思えます。        同時に、私どもとしては、子どもだけでなく、大人の方も参加できるような取組みにしていきたいと考えています。携帯電話は、今日、お子さんも持っていらっしゃると思いますが、やはり大人の方が一番使われているものです。データが残っているためどうしても処分に戸惑っている、写真等を大切にしておきたいからと保管されている、そういったものを掘り起こしていく必要があると思えます。        今は年に1回の見学会となっておりますが、回数については夏休みの時期以外にも開催できるような工夫をしていきたいと考えていますので、ぜひ大人の方にもご参加していただけるような取組みにしていきたいと思えます。</p>
27	<p>3年間の事業費が非常に多くなっています。これほどの事業費をかけて回収する効果があるのでしょうか。</p> <p>(清掃事業担当副参事)        事業費についてですが、記載の事業費は、オリンピック・パラリンピックに直接関係ない部分も含んでいます。今まで我々が取り組んできた、古紙、ビン、缶、ペットボトルの回収といったものを含めた事業費ですので、その内、オリンピック・パラリンピックに関連する事業費は一部ということになります。本年度の現在までの実績を申し上げます。今年度は15万円かかっています。それに対して、金銀を売り払いという形になりますが、私どもの収入ですが、現時点で250万円ですので、費用対効果で申し上げますと10倍から15倍程度の効果があります。もちろん、オリンピック・パラリンピックにおけるレガシーという意味でも、再資源化の拡大という道筋を広くつけるという効果がありますが、実際に費用対効果を考えれば、かなり効果のある事業ととらえています。</p>
●全体	
28	<p>東京オリンピック・パラリンピックの会場計画についてですが、実際のオリンピック・パラリンピックの際には、出場国は事前に日本国内で合宿・キャンプを行います。開会式の2週間ほど前に選手村がオープンし、各国の選手たちが選手村に入ります。</p> <p>ですが、日本のこの時期の暑さ対策ということで、ほとんどの競技団体が1か月ほど前から日本で合宿を行います。北欧のスウェーデンは、福岡県と福岡市で長期の事前キャンプを行います。来週私も行きますが、中国の選手団を誘致したいと長野が今名乗りを上げています。ほかにも、オランダが千葉に入ってきます。オリンピックは7月24日開幕ですが、4月くらいから新宿周辺にはものすごい数の海外の関係者が集まります。</p> <p>昨年のリオ大会に私も競泳関係で入りましたが、私たちの立場では選手村には入れません。これは、各国、各種目でADカードの発給枚数が決まっていて、団体種目が出ると、そこだけでたくさん発給されてしまうのです。</p> <p>競泳だけでも、選手村に入れなかったコーチ陣がほとんどということで、その方々はどこに泊まるかというと、基本的には都内各所に泊まります。可能性として、新宿区も最終的には宿泊地として狙われることだと思えます。想像していないことが出てくるということもありますので、自分の経験してきたことを皆様に情報としてお伝えしていきたいと思えます。</p>

No.	意見・回答要旨
●ボランティア	
29	<p>ボランティアについては、社会福祉協議会では、これから人材発掘や養成が課題になっていますが、福祉関係のボランティアとしては、活動団体数は153団体ということで、団体の方にも受け入れていただいているところです。</p> <p>ただ、現在の社会福祉協議会の仕組みとしては、やはり新宿未来創造財団が、語学ボランティアやスポーツボランティアを中心にまとめていただいたり、支援していただいていますので、今のところは役割分担をしているということです。</p> <p>その中で、社会福祉協議会は地域とのつながりが多く、七夕の季節に、外国からの留学生を対象に地域の方が浴衣の着付けをなさって、それを盆踊り大会につなげるなど、開催時期を踏まえても、何か応援ができるのではないかとということで、社会福祉協議会としてもこの協議会等のご意見を踏まえながらできる活動を進めていけたらと思っています。</p>
30	<p>組織委員会のボランティアや東京都のボランティア、新宿区の独自のボランティア、それぞれに募集することになるのでしょうか。もし募集するとしたら、どういう役割分担で、東京都のボランティアと新宿区のボランティアが役割を果たしていくかを知りたいのですが。</p> <p>(東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長)</p> <p>組織委員会と東京都のボランティア募集の方向性については、今ご案内したとおりです。新宿区として独自のボランティアを募集するかどうかは、今後検討していきます。</p> <p>仮に募集することとした場合、大会ボランティアや都市ボランティアとの役割分担を組織委員会や東京都と調整していく必要がございます。今後、区民協議会でその進捗をご報告をさせていただき、それをどのように活用していくか、どうPRしていくといいか等について、ご意見をいただければと考えています。</p>